

# 専念寺通信

## 専念寺通信

十月号 (NO. 122)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉通りお彼岸のお中日から、秋がとつぜんはじまりました。気温差のはげしい今年の秋ですが、みなさまお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか？今月号は専念寺境内の写真をたくさん掲載させていただきます。



### ☆秋の彼岸会

今年は7日間の彼岸会の前に土曜、日曜がつながりましたので9日間のあいだ、ほぼ、たえまなく檀家さまがお墓参りにいらっしゃいました。玄関の芳名帖に記帳してくださった方だけで265軒の檀家さまがおいでくださいました。彼岸の入りの日には最高気温33度から34度の真夏、お中日は大雨とかみなり、そしてお彼岸の後半は急に気温がさがり、最高気温は23度、と、お天気の変化のはげしい9日間でした。最初の3、4日間は、檀家さまが汗を拭き拭き玄関に見え、「お暑うございます。」と私共もご挨拶していました。大雨の日には玄関にタオルをご用意して、しばらく雨やどりしていく檀家さまもいらっしゃいました。



お彼岸の後半になりますと、みなさま、上着を着たり、コートを着たり、すっかり秋の装いでいらっしゃり、夏の作務衣の私共も玄関で吹く風の冷たさによりやく秋が来たことを実感いたしました。

いつもおいでになり、親しくお話しさせていただいている檀家さま以外に、新しい若い方たちの増えたことが今度のお彼岸の発見でした。記帳くださり、何々家、と書いてくださったところで、ああ、あの方のお子さん、お孫さん、姪ごさん、とわかり、そういえば、お顔やしぐさが似て

いたり、雰囲気似ていたり、と、ほのぼのとした嬉しい思いがしました。ひとつのお墓の花立てに供花があり、手桶にまた違うお花が入れてあり、みなさま本当にご家族思いのあたたかい方たちなのだと、しみじみと感じたことでした。いらっしゃるたびに、その年齢に驚かされる若々しい檀家さま、病氣と闘いながらも必ず墓参する方、楽しいエピソードをひとつ聞かせてくださり、私共を笑わせてくださる方、片道1時間40分かけておでかけ下さり「今日は道がすいていましたよ。」とおっしゃる方、ご夫婦そろってステッキで、ゆっくりゆっくり歩いていらっしゃる檀家さま、おひとりおひとりとの会話に私共は励まされ、この寺を守ることの大切さを教えて頂きました。



### ☆銀杏

今年はお彼岸の風の強い日にことし第一番めの銀杏の実が落ちました。例年と比べ、とても早く、葉も青く、新鮮です。10月に入ってからは、毎朝、ぎんなんを拾っています。今年には檀家さまに専念寺恒例の袋入りぎんなんを差し上げられると、せっせとためています。写真は左上から、「紫式部」これは、本堂左よこの桜の木の下に、可憐に実をむすんでいます。左下は彼岸花です。今年には開花が遅く、お彼岸明けの日にいっせいに開きました。右上は彼岸花を真上から写してみました。幾何学的な、和の編み物のような美しさです。右下がことし一番の銀杏の実。そして去年は咲かなか



った、墓地奥の玉すだれです。うれしいことにお彼岸明けに咲きました。こんな小さな寺にも天の大きなものはちゃんと恵みを下さいます。季節のかわりめ、皆さまどうぞおたいせつになさって下さい。



平成22年10月1日 大黒